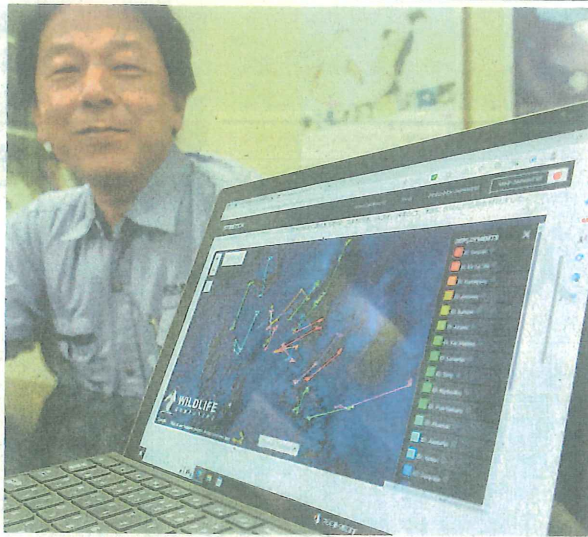


アカウミガメの放流 北太平洋中部で成功



名古屋港水族館 サイト上で回遊経路確認も

①アカウミガメの回遊経路を示すサイトを紹介します。栗田館長「名古屋港区の名古屋港水族館で、②回遊経路を調べるため、放流されるアカウミガメ」北太平洋中部の海上で（同水族館提供）

名古屋港水族館（名古屋港区）が北太平洋のアカウミガメの回遊経路を調べている共同研究で、同館は十四日、北太平洋中部の海上で、アカウミガメ二十五頭の放流に成功したと発表した。研究の公式サイトも開設され、放流されたカメの位置情報をリアルタイムで確認することができる。



送信機を取りつけられたアカウミガメは六月二十七日、同区の名古屋港金城ふ頭で、商船三井の自動車船「ギヤラクシーエース」に乗せられ出発。日本時間では十一日午前十時ごろ、北太平洋中部の海上に放流された。アカウミガメの健康に問題なく、元気に泳いでいるという。

公式サイトでは、研究の背景や概要を紹介するほか、それぞれのアカウミガメの回遊経路を日時とともに確認できる。名古屋水族館のホームページからもアクセスできる。栗田正徳館長は「アカウミガメは絶滅の恐れがあり、日本での産卵数も減っている。研究をきっかけに関心を持ってもらい、将来の保全につなげて

いきたい」と期待する。アカウミガメの生態を調べるため、研究は五年計画で実施。毎年、二歳前後のアカウミガメ二十五頭を北

太平洋中部で放流し、北米西海岸に至る回遊経路と海水温の変化の関連性を調べ、効果的な保護活動につなげる。（坂本圭佑）